

『ゆずり合い せまい道路も 広くなる』

～平成25年度「道路ふれあい月間」推進標語 入選作品決定のお知らせ～

道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」とは◆

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路を利用している国民の方々に道路とふれあい、道路の役割や大切さを再認識していただき、道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発を図るとともに、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的とした運動を実施しています。

期間：8月1日～8月31日

主催：国土交通省

後援：内閣府、警察庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、環境省

協賛：100団体程度（教育機関、ボランティア団体、報道機関等）

◆「道路ふれあい月間」推進標語◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない基本的な施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過ごされがちです。そこで、「道路ふれあい月間」の行事の一環として、改めて道路の意義・重要性について考えて頂くことを目的に、平成25年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集しました。国土交通省ホームページなどで募集を行ったところ、全国各地から7,663作品もの応募がありました。

これを受け、審査懇談会を開催し、3名の審査員（三好礼子氏（エッセイスト、国際ライター）、やすみりえ氏（川柳作家、文化庁審議会分科会委員）、吉岡耀子氏（交通・環境ジャーナリスト））による厳正な審査の結果、最優秀賞3作品、優秀賞6作品が決定しました。



◆審査委員◆（総合選評）



三好礼子 委員

これからの日本の道は、明るくて希望がある！と思えてくるものが多かったと思います。こんな風な道であってほしいですネッ！！
最優秀作品は、改めてすごいと思っています！

（三好委員）いろいろな角度（年齢・立場）から見たものが選ばれたと思います。すべての応募作品を読むと、「元気で面白い」ものがいっぱい。選ばれたものは、同じ言葉を使っても流れがよく、より「伝わってくる」作品だったと思います。



やすみりえ 委員

世代の道への思いを感じることができました。一般の部は、「しみじみ ほのぼの系」が最終選考に並びましたね。

（やすみ委員）一読で、きちんとメッセージの伝わってくる作品が多く寄せられたと思います。小学生の部は、低学年はかわいらしく素直な内容。学年が上がるほど大人顔負けの言葉選びで完成させていました。中学生の部になると、社会とのかかわりや人生と重ねて表現したものが増え、ジュニア



吉岡耀子 委員

大人も子供も道路に思いを寄せ、楽しみながら作ったのではないのでしょうか。作品からは様々な道路と人の姿が見えるようです。

（吉岡委員）小学校、中学校、一般と、それぞれの生活感に裏打ちされた、ナチュラルな感性が表れているように感じました。大人も子供も道路に思いを寄せて、楽しみながら作ったのではないのでしょうか。作品からは様々な道路と人の姿が見えるようです。

◆平成25年度の入選者・作品◆

※発表内容は応募時点

最優秀賞（3作品）

【最優秀賞】

小学生の部

『ゆずり合い せまい道路も 広くなる』

樋口莉奈さん（山梨県 南アルプス市立八田小学校）

中学生の部

『踏みしめて 未来へつづく 道がある』

大山藍さん（茨城県 小美玉市立玉里中学校）

一般の部

『おかえりと 道の向こうで 待つ笑顔』

中川潔さん（福井県 福井市）

◎最優秀賞3作品のうち、3委員に好評だった「ゆずり合い せまい道路も 広くなる」を今年度の代表標語とします。

優秀賞（6作品）

【優秀賞】

小学生の部

『『おはよう』の 声がいっぱい 朝の道』

中谷麗夢さん（大阪府 豊中市立野畑小学校）

『のびのびと ゆめに向かって 歩こうよ』

岩澤真夏斗さん（秋田県 大館市立積内小学校）

中学生の部

『この道を 歩けばいつも 笑顔あり』

加藤広菜さん（神奈川県 山北町立三保中学校）

『新しい 人との出会い つなぐ道』

近藤海太さん（静岡県 静岡市立城内中学校）

一般の部

『『ありがとう』 道路が救う 命ある』

星野典比古さん（栃木県 小山市）

『いつだって 道といっしょに ある暮らし』

内河裕信さん（神奈川県 相模原市）